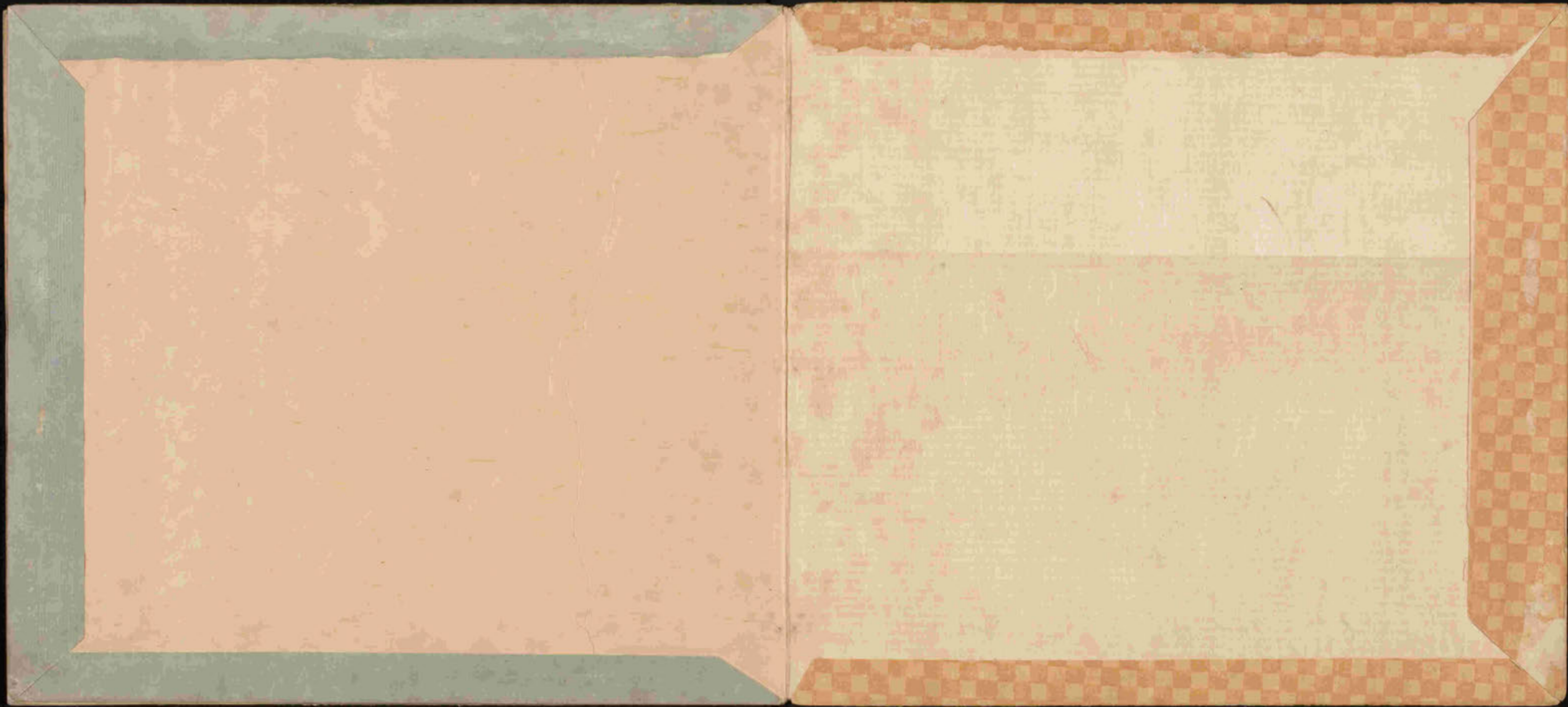


古今集

題名

一



古今和歌集題名釋

同之世集を古今和歌集と名付



事い一般かゆとや

答といふと其奇を集りぬぞ

難と其右い海内奇はあつたり

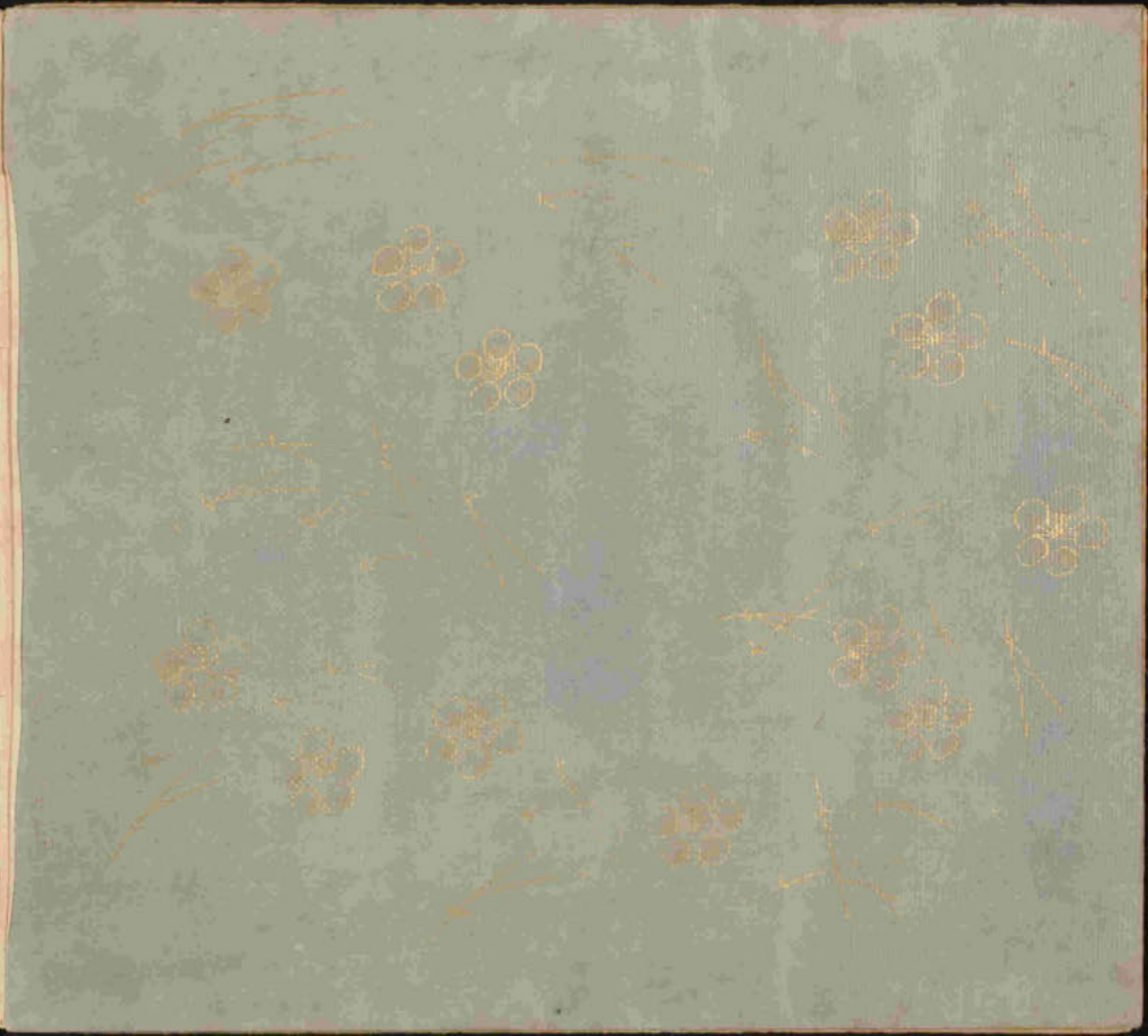
や中今中何とら文字

よてんころ事

内典外典ハハハハハハハハハハ

言ハ大意ハ帝ヲ歌ハ帝ハ

心を題名歌とらハハハハハ



従少将とついで

答々此集は古今和歌集と見付事

ある事ありと二巻と一巻と

いふ事ありと此集を集る事あり

いふ事ありと此集ありと此集あり

てと二巻と一巻と

いふ事ありと此集ありと此集あり

此集よへるいふ事ありと右の家名を

らふ事ありと此集ありと此集あり

平徳丸あはれ事ありと又二巻と

集なりと此集よ二巻といふ事あり

る事ありと右の家名をらふ事あり

と三十三年ありと一巻と中比

と此集ありと此集ありと此集あり

此集ありと右今集撰後面をいふ

の事ありと右今集撰後面をいふ

百余年ありと此集ありと此集あり

と此集ありと此集ありと此集あり

と此集ありと此集ありと此集あり

と此集ありと此集ありと此集あり

と此集ありと此集ありと此集あり

此集の
柱の意

今集の
柱の意

又二義と一義と三年と
内ノ書ハ二首ノ内ノ一首ハ
今ハ多ク誤つたり陽成ハ光
孝ハ宇多九面自九粒合ハ代
延喜ハ幸キテ元年也
の字今ハ多ク誤りたり
古もび一義と一義と
年也一義と一義と
沖ノ書ハ一義と一義と
の沖代九年の字ハ
幸キテ一義と一義と

よハ一義と一義と
一義と一義と
義なり

二之古也一義と一義と
多ク誤りたり
今ハ多ク誤りたり
一義と一義と
今ハ多ク誤りたり
一義と一義と
今ハ多ク誤りたり
一義と一義と
今ハ多ク誤りたり
一義と一義と
今ハ多ク誤りたり

學未せり人又心人撰者し奇を
もよししめて世集よ入る取し
きりし般方筆をらし早下り詞よ
玉きり也入し序を

但見上古之奇多存古質之
語未為耳目之既徒為教誡之
端滴波時愛流醜人貴奢流
洛詞雲與之歌流泉涌其實
皆落具花得業

彼ら序を 今り世中矣。はこ

人々ん花よりりなかりりあた
りり奇しんらりし中よいもよし
又この世の家の中の人
とよらりしりりて海のりあよ
ハ花よしりしりし事よも
わらあちりりりりしりり
物よらりしりりりりりり
めはしりしりりりりりり
く今りりりりりりりりりり
明也跡を地也一且いりりりり

わが書ごとくは世集の帝は御寶
うて未だ竹まきとせり傳へし夜
真名帝は陛下沖宇千今九載
仁流秋津例へ外忠茂鏡波山
之隈例裏為瀬之聲來る向
口破長為巖之頑詳に満耳思繼
變絶之風欲魚久瘴之道
假名帝云 人丸くさりたし
も奇りしや御さるれたと
し時くつらとさりたのらん

出〜行よ〜も世奇れ〜
〜やま柳乃系あはねま
葉のあしを〜して御さるる
う〜ま〜げ〜る馬たわこ
久〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜

今よりして今迄にや
これら世集の題名よき
あつた和漢の序よき
しん人の撰よき
そして市より未代
自由よき
つゝ世集を撰中も各
しつひよあつた
撰くよ世集の
ふ中よねよ

答えいりり
うり世集の必
せり中よあつた
代よ世集をえ
も世集よあつた
いんよ世集の
はよのよ世集
今よ世集をえ
をよ世集の撰
世集よあつた

みづらき... 撰名れい... 物を... 早下り... 尋常...

ひやま... 名竊秋夜長... 嘲退愁... 似名序... の白ひ...

みづらき... 奇れ... 中... 三... 古今者... 古今... 上...

同... 集... 撰...

此は百集集のありし百集集の
てわ奇めさるしとて集の
和奇のあまのりしとて

答之は百集集の文武のありし
字の偶話見のありしとて集集の
はる序のありしとて集集の
を集りよりて百集集のありし
此は和奇のありしとて集集の
集のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集の

わ奇のあまのりしとて

難之は百集集文武のありしとて集集の
は文武のありしとて集集のありし
奇を集りしとて百集集のありし
とて集集のありしとて集集の

答之文武のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集のありし
とて集集のありしとて集集のありし

天皇の文帝は神代歌を
なす。又諸見の神代歌を
しり集めてしりし外は
歌せしものも又神代歌
の神代歌の神代歌の
首を撰列し平仍中
の故後序の義の
わけのありし
神代歌の序の
同之今之奇を
わたりて

吾之天皇の神代歌を撰
て震旦詩賦の神代歌
詩賦を撰して
とたりてわたりて

唯之世ありし震旦の我朝に通
す中の人王九代帝同化天皇
神代歌の神代歌の神代歌
ひしの人神代歌の神代歌
ひしし神代歌の神代歌

十六代帝應神天皇七年丙申高
麗より負論語千字文を傳ふ
丙十六年己丑經博士百餘回く
王仁來りてんんり紀伊古く
天神も沖代より來りてんん
いしあり下照姫のや何といし
通をよりんんし詩賦を伝ふ
和奇やみ付て是不實也之書あり
答云今乃やを和奇と云ふ付て之書
と云ふことなりしに承朝を和國に

云より國の風俗を神代より傳り
ゆよ和奇と云ふ世國を和書と云
すハ神明先とらるるんんんんん
るを化かて國より及ぶわんんんんん
一書ハありし詩賦を傳ふけ
るるのりて和奇と云ふ所は漢
士と云ふ家本の地也よりんんんん
はひしなりしとて別く和國土
を通不通過と云ふ事ありて天
神代沖代天文と云ふんんんんん

未代のうゑつゝ中を知らず
和歌や名付はもや重徳太師と未
足信ら未代記はよきしほよ
ゆり未代記のしや故は天神の御
地詩賦の通人なり中は意を
しつゝしつゝとて讀み給へ中を
介し中もやゆん詩をなけ
さりや分明もや詩正曰
情動於中遷是在心居而
言遷是發言為詩



故詩今奇と曰也取同書之
哀樂之起冥然自然喜怒之端非
中人事取道在表咽進之感寫
風有奇案之容地詩と地奇
也同也一と云はるは詩賦
危しうたたり中いらと云はる

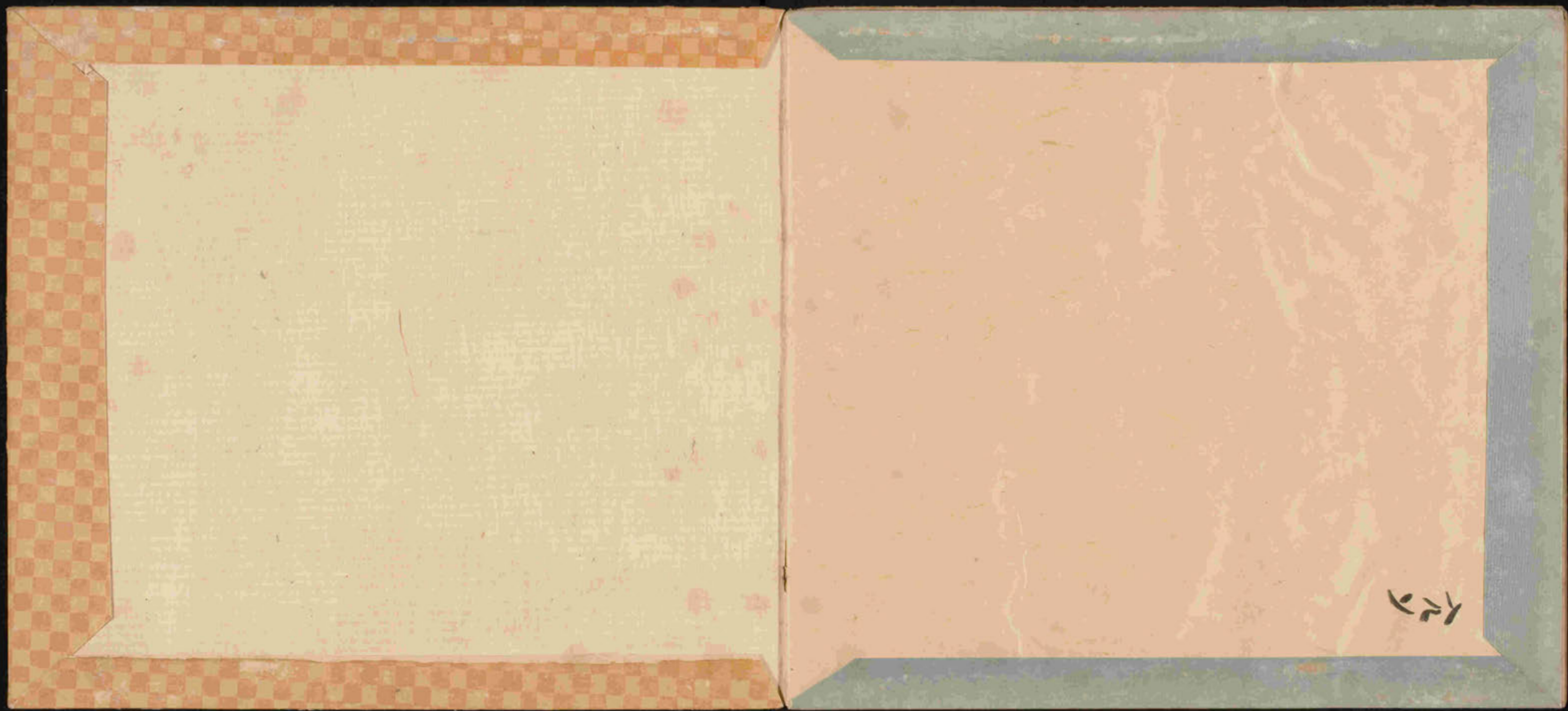
同云地奇も和奇と云つゝ奇は
可兼り時和奇は文字は一と云
後集もは地奇文字は一と云
地集は後集はうらまへて撰と云

此一冊の書は、
~~~~~  
外に、  
~~~~~  
此一冊の書は、
~~~~~  
今和歌とは云ふ也夫









22



110X  
341  
10